

# 国立科学博物館附属 自然教育園

平成27年度 学習支援活動

## 「やさしい生態学講座」(全6講座)

対 象：一般社会人、大学生  
定 員：1講座につき40人  
日 時：平成28年2月16日(火)～2月21日(日)  
いずれも 13:30～15:30  
会 場：国立科学博物館附属 自然教育園 (港区白金台)  
東京都港区白金台5-21-5  
入 園 料：一般・大学生310円が必要 ※ 高校生以下、65才以上の方は無料  
参 加 費：無料  
申 込 方 法：平成28年1月15日(金)から電話にて受付開始  
午前9:00～17:00まで(毎週月曜日と祝日の翌日は休園)  
電 話：03-3441-7176 自然教育園 にて次の①から⑥をお伝え下さい。

①希望講座 ②居住地市区町村 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥職業・学生等



○  
○  
天然記念物及び史跡  
自然教育園は四季折々の美しさをご覧ください。  
○  
○



### 【交通】

JR山手線目黒駅、東急目黒線目黒駅から徒歩約9分  
東京メトロ南北線・都営三田線白金台駅から徒歩約7分



# 国立科学博物館附属 自然教育園

平成27年度 学習支援活動

## 「やさしい生態学講座」 (全6講座)

趣旨：広く一般の方を対象として、身近な自然の生態的な見方について、講座を通して理解を深める。

日時：平成28年2月16日(火)～2月21日(日) 各講座とも13時30分～15時30分まで

会場：国立科学博物館附属 自然教育園 (港区白金台)

東京都港区白金台5-21-5 TEL:03-3441-7176

### ○ ○ 日程及び講座概要 ○ ○

#### 1. 2月16日(火) 記野 秀人 (浜松医科大学医学部 助教)

「シモグリチピガの生活史研究—40年前の自然教育園—」

約40年前、自然教育園のスダジイの葉が異常落葉するようになり、調べると「潜葉虫」と呼ばれる蛾の幼虫の仕業でした。この虫は夏に休眠し冬に成長するという変わった生活史を持っていました。その背景にある環境要因への適応について紹介します。

#### 2. 2月17日(水) 鏡味 麻衣子 (東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授)

「泳ぐかび—湖や海における多様性と機能—」

カビやキノコの仲間は水の中にも生息し、その多様性や生態系における役割が最新の研究により次々と明らかになっていきます。泳ぐカビのユニークな生態を紹介し、人間社会とのつながりについて考えます。

#### 3. 2月18日(木) 倉本 宣 (明治大学農学部農学科 教授)

「里山の自然を守る—生態学の視点から—」

里山は伝統的な農林業と自然の力のバランスによってできた生態系の集まりです。この講義では里山の自然の成り立ちや歴史について解説し、現代の里山ボランティア活動を生態学の視点から考えます。

#### 4. 2月19日(金) 西廣 淳 (東邦大学理学部生命圏環境科学科 准教授)

「種子から考える保全生態学」

植物の種子には、植物が変化し続ける環境の中で世代をつないでいく「知恵」が詰まっています。望ましい環境を種子の性質から学ぶとともに、失われた植生の再生に種子を活用する、「保全のための種子生態学」について解説します。

#### 5. 2月20日(土) 井手 竜也 (森林総合研究所 特別研究員)

「虫えい形成昆虫のおもしろい生態」

昆虫が植物を使ってつくる実や花のような不思議なふくらみ「虫えい」について、どのような虫がどのような植物にどのような形の虫えいをつくるのか、その虫えい形成昆虫の興味深い生態とともにご紹介します。

#### 6. 2月21日(日) 佐藤 俊幸 (東京農工大学大学院農学研究院 准教授)

「社会性昆虫の行動生態—アリの繁殖は何でもアリ?—」

不妊の働きアリがなぜ進化したのか?ダーウィンが悩んだ問題は、ハミルトンが包括適応度の概念を提唱し「血縁選択」により説明されるようになりました。包括適応度および社会性昆虫の様々な繁殖生態について解説します。昨年度の講義内容に加え、自然教育園に生息する面白い生態のアリも紹介します。